

●土木工学における最近の注目すべき話題に、土木計画学の登場がある。  
土木計画学といういささか重苦しい表現に抵抗を感じる向きには、土木に関する計画の哲学、手法、システムズ・アナリシスなどといえば、幾分かわかりやすいかもしれぬ。  
土木計画学の内容をいちべつすると、そこには、情報化時代にふさわしい情報処理技術があるかと思えば、政策論や開発論・環境論もあり、いささかとりとめのない嫌いもある。  
換言すれば、従来の土木工学的な方法論からはみ出るとされる発想・手法・体系があり、そこに戸惑いを感じる要因もあり、またこの学問の特長があるともいえる。  
そのことは、土木計画学を推進させることによって、土木工学の新たな発展、現代の社会が切望している境界領域の開拓が期待されることをも意味している。  
若い学問であるだけに、期待と不安が共存している。と同時に、多くの土木技術者が暖かい心でこれを育てることによって、土木工学の国際的発展、土木技術者の広範な活動へのかけがえのない糧とすべきではあるまいか。

主として土木計画学を育てたことの功績で文化勲章を受賞された鈴木雅次名誉会員の随想には、この学問の先駆者としての意欲と配慮がにじみ出ている。  
計画の論理を追究し、この学問の体系化を目指し、土木技術者の飛躍の場を設定することこそ、若い会員の責務であろう。

土木計画学研究委員会  
土木学会誌編集委員会

●特集

# 土木計画学

△第一苦小牧港の近況・写真／苦小牧港開発株式会社提供▽